

施 策 評 価 表

京都府南丹市
作成日: 平成22年7月13日

平成22年度(平成21年度実施)

評価施策名	2 明日を担い、内外で活躍するひとを育てる	施策CD	12	施策主管部	教育委員会	部長名	東野 裕和
政策名	第1章 生涯充実して暮らせる都市を創る	施策関係部					

【施策の概要】

1 南丹市が考える理想(目的)

目標項目(成果)	単位	H20	H21		H22	H23	H24
		実績値	目標値	実績値	目標値	目標値	目標値
改修済の幼稚園、小・中学校施設数	施設	1園、9校	2園、10校	2園、10校	2園、13校	2園、14校	2園、15校
学力水準度		良好	概ね良好	良好	概ね良好	概ね良好	良好

- 非常災害に備え、耐震強化を図るとともに、良好な教育環境の整備を図ること。
- きめ細やかな指導で、基礎・基本や自ら学び自ら考える力を身につけることにより「確かな学力」の定着を図ること。
- これからの変化の激しい社会において、他人と協調しつつ、自立的に社会生活を送っていくために必要となる「生きる力」(人間としての実践的な力)の育成を図ること。

1 南丹市の現状(課題)

- 非常災害に備えた耐震強化が出来ていない。
- 良好な教育環境の整備が出来ていない。
- 少子化の中で複式学級を有する学校が、今後もなお増加する見込み
- 小規模校のメリット・デメリット含め、子どもにとってどれが最善か、検討できていない。
- 学校以外での勉強をする時間が少ない。
- 児童・生徒の読解力が低下している。
- 指導力や授業力の向上がないと、「確かな学力」の育成に支障がある。
- 核家族化の進行などにより様々な生活体験の機会が減少している。
- 自発性・行動力を育む機会が減少している。
- 自ら学び考え行動できる「生きる力」の育成が重要な課題となっている。

3 それが何故おきたのか

- 学校には、築40年以上経過したものや旧耐震基準により建設されたものがある。
- 子どもたちの活字離れが進んだ。
- 国語力・考える力を育む機会が減少している。
- 小・中連携が不十分であった。
- 教育のPDCAサイクルの確認(評価)ができていなかった。
- 家庭学習の習慣が定着していない。

2 対策をしなければどうなるのか

- 巨大地震が発生した際には、学校施設が崩壊する可能性がある。
- 将来の南丹市を背負って立つ小・中学生の学力・意欲の低下を招く。
- 小・中学生の生きる力の育成が果たされなければ、社会適応力がつかない。

4 それらを解決するために何をするのか

- ①子どもたちの発達にとって最適な教育環境を整備する。
 - ・学校施設等の改築や改修
 - ・学校規模の適正化と適正配置に関する検討
 - ・教育における情報通信基盤の整備と教職員の技能向上
 - ・遠距離通学を行う児童や生徒を持つ家庭への支援
 - ・児童生徒を守る安全対策の充実
- ②教育内容を充実させる。
 - ・授業改善や指導方法の工夫改善
 - ・国際理解教育の推進
 - ・読書活動の推進
 - ・障がいのある児童等に対応できる教育体制の整備
 - ・山村留学の実施
 - ・心の教育の推進
 - ・保育所、幼稚園、小学校、中学校間の連携・接続
- ③その他
 - ・学校評価・キャリア教育の充実
 - ・PTA等と連携した家庭教育学級の充実

【施策コスト】(評価対象事業の合計)

	単位	H20	H21	H22	H23	H24
決算額(計画額)	千円	313,157	702,415	278,076	636,731	719,083
財源	使用料・手数料	千円	6,845	23,779	11,005	7,580
内訳	国・府支出金	千円	12,699	333,587	1,117	165,840
	地方債	千円	3,300	85,813	0	134,400
	一般財源	千円	290,313	259,236	265,954	328,911
職員従事人数	人・年	7.56	74.70			
人件費	千円	39,689	192,295			
事業費総額	千円	352,846	894,710			

【施策目標の達成に貢献度の高い事業】

全 41 事業

単位:千円

事業名(細事業名)	決算額	うち一般財源	うち人件費
学力充実・少人数指導事業(学力充実・少人数指導事業)	37,826	37,826	37,038
小・中学校英会話事業(小・中学校英会話事業)	15,491	8,716	1,768
教育研究委託事業(教育研究委託事業)	5,096	3,446	1,796
京の子ども夢・未来体験事業(京の子ども夢・未来体験事業)	1,775	935	935
青少年バス運行事業(青少年バス運行事業)	1,902	1,902	1,523
教育振興事業(教育振興事業)	28,415	22,215	2,000
教育振興事業(教育振興事業)	21,751	18,051	1,399

【前年度の評価】(要約)

【総合評価】

- ①目標の達成状況
 - 教育施設の耐震化に係る整備は計画的に進めているが、修繕面では十分ではない。
 - 学力向上については、「生きる力」と「確かな学力」の育成に事業対応している。小中連携教育研究事業では、授業改善につながる成果がみられた。また、学校評価システムを構築し、実行できる体制ができた。小学校英語活動については拠点校で実践しながらレッスンプランを作成した。
 - ②目標値や施策の考え方の見直し
 - 施設整備、管理面では、適正規模が必要である。
 - 学力向上などでは数値目標で表していくが、「確かな学力」を培い「生きる力」を育成するため、学力向上システムや学習サイクルの到達点を明確にし、事業推進することが大切である。

【改善の方向性】

- ①今後の方向性
 - 学校の適正規模について、教育効果の観点から一定規模の集団であることが望ましい。
 - 各学校は目標の達成を目指し、教育水準維持と教育の機会均等を果たさなければならぬ。
 - ②各事業の対応
 - 耐震補強工事の計画的な実施。
 - 通学対策に係る事業は、引き続き対応が必要である。
 - 学力充実・少人数指導事業などは学力向上・充実のための体制整備として必須である。・教育振興における学校備品については、教育効果の改善向上のため不可欠である。
 - 山村留学事業は、地域振興事業として地域の活性化に寄与している。

【評価を受けて取り組んだこと】

- ①学校教育施設の耐震補強工事は計画的に実施できた
- ②児童生徒数が減少し、複式学級の学校が増加していく中で、今後子どもたちの発達にとってよりよい教育環境を考えしていくため教育委員会での内部協議や南丹市PTA役員との意見交換を実施した
- ③学力の向上を図るため、学力充実講師を配置するとともに、通常学級に在籍する軽度の障がいのある児童生徒に対し、特別支援教育支援員を配置した。
- ④小学校英語活動では、高等学校と外国語活動パートナースクール事業を実施し、高校生と小学生の英語によるコミュニケーション活動を実施した

【今年度の評価】

【総合評価】

- ①目標の達成状況
 - 耐震化については、1園1校の耐震化を完了し、目標値を達成した。
 - 学力水準についても、目標を上回る「良好」という結果であった。

- ②目標値や施策の考え方の見直し

【改善の方向性】

- ①今後の方向性
 - ＊生きる力を育む学校教育環境整備について検討していく
(子どもが生き生きとする、より良い教育環境での学びを基本に、ハード面、ソフト面の両面から総合的な整備検討の必要性を確認していく)
 - (卓越性をめざした特色ある学校づくりや学校評価のなかで、質の高い学力の育成を図り、中学校ブロックを軸に保幼・小・中の学びの接続連携を推進する)

②各事業の対応

- ②各事業の対応
 - ＊耐震化にかかる整備の計画的実施については、適正な学校規模のあり方を検討する必要があり、第一に子どもたちの発達にとってよりよい教育環境での学びを基本に、幅広く意見を聞きながら、子どもたちが生きる力を育む環境づくりと併せて検討していく
 - ＊学力向上については、新学習指導要領のめざすところの「生きる力の育成」にあり、確かな学力=質の高い学力、豊かな人間性の育成、健康や体力の向上が重要であり、知・徳・体をバランスよく育てる
 - ＊通学対策については、低学年の児童数の激減などで安全対策が必要になってくるため、他集落との合同登下校などによる安心・安全な対応を検討していく
 - ＊小学校英語活動については、今後も高等学校とのパートナースクール事業を継続するとともに、配置した電子黒板を有効活用していく